

## 沖ノ島・森林再生プロジェクトX

高校生ボランティア・アワード2021

## 「はじまりは台風被害」

## 【活動概要】

私たちは、学校の近くにある沖ノ島の森林を再生する活動をしています。沖ノ島は、周囲約1kmの小島で、「歩いて渡れる無人島」として観光客に人気のあるスポットです。

この島は、2019年9月5日に上陸した台風15号により甚大な被害を受けました。最大瞬間風速 48.8m/s の竜巻のような猛烈な風により、島の木々は倒れ、森は破壊されました。

そこで、島の森林を再生するために、『NPO法人たてやま・海辺の鑑定団』が中心となり再生活動を始めました。私たちは、昨年度からこの活動のお手伝いをさせていただいています。



また、この台風被害に対して「風に立つライオン基金」から館山市へ御支援をいただきました。その感謝の気持ちも表したく、今回「高校生ボランティア・アワード」に応募しました。



## 「すべてが次世代エネルギー」

## 【活動方針】

森林再生活動を行う前に、なぜこれほどの被害を受けてしまったのかについて、『NPO法人地球守』が、その専門的な知識を活かして、沖ノ島を調査しました。

その結果、倒木が多く発生した原因は台風が強大だったからだけではなく、次のように、島の土壌に問題があるということがわかりました。

コンクリート園路などの人工物ができたことや観光客によって踏み固められたことにより、地面が乾燥して、雨が降っても土中に染み込まない状態になっていました。土の中に空気や水が通らないので、岩盤の乾燥と崩壊がおきて、さらに水脈が目詰まりを起こすという悪循環が生まれ、今回の被害に至りました。

そこで、この森林再生の最初の活動方針は「島の土壌を改善すること」になりました。また、倒木などは「次世代の木を育てるためのエネルギーとしてすべて使う」ということも重視して活動しています。

## 「ハチドリのひとしずく」～いま、私たちにできること～

【活動内容】 私たちは、活動方針に従い、現在、3つの活動をしています。

## ① 倒木の整理

島には倒木が散乱しています。その倒木をノコギリで切り、太さごとにわけて整理しています。倒木は島の外には持ち出さず、すべて島の中で活用するので、使いやすい状態にしておく必要があります。



## ② マウンドの作成

新しい木が育ちやすい土壌を作るためにマウンドと呼ばれる山を作っています。倒木を使ってマウンドの形を作り、その中に土や落ち葉、竹炭、燐炭を入れます。そうすることにより、菌糸が増殖しやすい土壌ができます。



## ③ 空気と水が循環する園路

土で埋もれていたコンクリート園路をはがして、空気や水が循環しやすい園路を作っています。はがしたコンクリートをハンマーで砕き、その破片を間隔を開けて並べ、土や落ち葉、竹炭、燐炭をかぶせたら完成です。



この活動のすべては手作業で行っています。時間のかかる作業ですが、その分、つくっている実感があります。また、NPOメンバーなどの世代の違う方々と会話しながら作業することは、とても新鮮で貴重な経験となっています。手間のかかる作業ですが、同じ志を持つ方々と、一歩ずつ進む森林の再生を楽しみながら、いま私たちにできることを今後も続けていきます。

## 「沖ノ島の50年後を見据えて」

## 【今後の展望】

- ◆ 50年後の沖ノ島が緑豊かで、たくさんの動物や魚が生息する場所になることを思い描いて活動を続けていきます！
- ◆ この活動はメンバーを固定しないで行っています。活動日に参加できる人を募って実施することにより、たくさんの生徒がこの活動に関わることができるようにしています。学校内でボランティアの輪をひろげていきます！ また、後輩たちにバトンを渡すことによって、森林の再生が長く続くようにしていきます！
- ◆ この活動を通して学ぶことはたくさんあります。土壌や植物に関する知識やノコギリなどの道具の使い方など、学校生活では得られない経験をたくさんしています。沖ノ島で学んだことを他の活動に活かします！
- ◆ 私たちの住んでいる地域の環境保全に対する意識を高めていきます！ 沖ノ島だけでなく、目の前にある森や海を豊かにする活動で実績を上げて、館山から日本全国に環境保全の素晴らしさを発信していきます！



## 【沖ノ島・森林再生チームX】

X JAPANのYOSHIKIさんとTOSHIさんは私たちの先輩です。バンド名のXには「無限の可能性」という意味が込められているそうです。私たちの活動もたくさんの可能性を秘めているので、団体名を「沖ノ島・森林再生チームX」としました。